

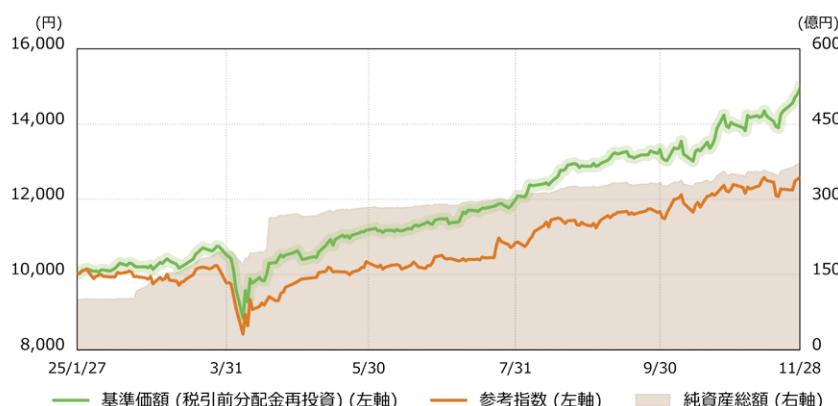
運用実績

基準価額 14,933円 | 前月末比 +935円 | 純資産総額 373.00億円

※基準価額は信託報酬(実績報酬含む)控除後の値です。※当ファンドにおけるこれまでの分配金実績はございません。

ファンド	過去1ヶ月間	過去3ヶ月間	過去6ヶ月間	過去1年間	過去3年間	設定来
	6.68%	15.97%	33.49%	--	--	49.33%

基準価額等の推移



※基準価額(税引き前分配金再投資)は、信託報酬(実績報酬含む)控除後の値です。
※グラフの基準価額(税引き前分配金再投資)は税引き前の分配金を再投資したとみなし計算したものであり、
実際の基準価額とは異なります。
※当ファンドにベンチマークはありません。参考指標は「TOPIX(配当込み)」です。

市場動向

11月は、大型半導体が牽引していたバブル的な相場が一服し、日銀の利上げ観測もあってバリュー優位の展開となりました。月末には小型グロース株にも反発が見られました。
TOPIX+1.4%、グロース250-2.1%となり、バリューの恩恵を受けやすいTOPIXが上昇しました。

ファンドの運用状況

相場のボラティリティに注意しながら運用します。トップダウン、ボトムアップ分析の両面を分析し、本源的価値と市場価格との乖離が大きい銘柄を厳選して集中投資します。投資先企業へのエンゲージメントを通してカタリストの創出と価値の顕在化を図ります。当ファンドはKaihouの投資助言を受け運用を致します。



fundnote CIO 兼
ファンドマネージャー
川合 直也

2013年、三井住友アセットマネジメント(現三井住友DSアセットマネジメント)に入社。
社内選抜にてロンドンビジネススクールへ1年間留学。2019年、日本株ロングショート戦略を行う香港籍ヘッジファンドに入社。キャリアの中で一貫してセクターを横断した国内中小型株の調査、運用に従事。
2021年、fundnoteを共同創業し、IPOクロスオーバー戦略の組合型ファンドを運用。京都大学卒業、ロンドンビジネススクール修了。



Kaihou助言担当者
竹入 敬蔵

1986年生まれ。東京大学の株サークルにて株式投資を学ぶ。2009年東京大学経済学部卒。同時にゴールドマン・サックス証券に入社しアナリストとして従事。2011年に独立系運用会社でのアナリストを経て、2018年には独立系ヘッジファンドに創業時より参画、ポートフォリオマネージャーとして従事。2021年より専業個人投資家として活動しながら、誰もが自分の好きで貢献できる社会を理想とし、株式投資を生涯の仕事とすべく、2023年に株式会社Kaihouを共同設立。



Kaihou助言担当者
井村 俊哉

1984年生まれ。中小企業診断士。2007年群馬大学工学部卒、卒業後にお笑いタレントの道に進み、キングオブコント2011では準決勝進出。2017年に引退。株式投資は大学在学中に開始し、2017年に通算運用益(税引前・含み益込み) 1億円、2023年に同80億円、2024年7月には一時的に100億円を達成した。2019年に投資の普及啓蒙と大衆化を掲げ株式会社Zeppyを起業。2023年に「ニッポンの家計に貢献する」をミッションに株式会社Kaihouを共同設立。

ファンドプロフィール

・設定日:2025/1/27

投資戦略

①わが国の上場企業を対象に、マクロ経済動向等のトップダウン分析および同業他社較等のボトムアップ分析の両面から企業の本源的価値を算出します。

②本源的な価値と市場価格との乖離が著しい、アルファが大きな銘柄を厳選して集中投資を行います。

③投資先企業へのエンゲージメントを通してカタリストの創出と価値の顕在化を図り、受益者へのリターンの極大化を目指します。

投資助言担当 株式会社Kaihou

株式会社Kaihou「ニッポンの家計に貢献する」をミッションに、2023年に設立された投資顧問会社です。株式市場が気が付いていない企業本来の価値と市場価格との乖離をアルファと定義し、これを追求します。獲得したアルファを家計に循環させることでニッポンの解放を掲げます。証券会社や運用会社でアナリストおよびポートフォリオマネージャーの経験を有する竹入敬蔵と個人投資家としての経験を有する井村俊哉が代表取締役を務めます。

※本ファンドはKaihouの投資助言を受け、fundnoteが運用を行います。

※本ファンドは特化型運用を行います。

※本ファンドはKaihouの投資助言を受け、議決権行使を行います。

※当ファンドにおけるこれまでの分配金実績はございません。

資産比率

上場株式	94%
現金その他	6%
合計	100%

ハイ・ウォーター・マーク 10,000円

※現金その他には未払費用等を含むため
現金残高とは一致しません

■ 設定・運用
fundnote株式会社

商号: fundnote株式会社

金融商品取引業者
関東財務局長(金商)第3413号

加入協会:一般社団法人投資信託協会

上場株式組入上位 10 銘柄

順位	銘柄	α スコア(Dスコア+Uスコア)	業種	比率	順位	銘柄	α スコア(Dスコア+Uスコア)	業種	比率
1	非公開	96(35+61)	銀行業	32%	6	非公開	85(28+57)	機械	5%
【投資概要】非公開									
2	非公開	92(33+59)	金属製品	14%	7	非公開	82(24+58)	化学	4%
【投資概要】非公開									
3	非公開	89(25+64)	電気機器	9%	8	非公開	84(22+62)	電気機器	4%
【投資概要】非公開									
4	非公開	87(28+59)	建設業	6%	9	非公開	82(26+56)	卸売業	3%
【投資概要】企業価値向上よりも安定株主作りを優先していないか重点対話先に指定									
5	非公開	85(25+60)	サービス業	5%	10	非公開	85(31+54)	電気機器	2%
【投資概要】少数株主との利益相反性が疑われるCMSの縮小・廃止を促すべく重点対話先に指定									

業種別構成(上場株のみ)

業種	比率
銀行業	34%
電気機器	18%
金属製品	16%
建設業	7%
機械	6%
その他	19%
合計	100%

時価総額別比率(上場株のみ)

時価総額等	比率
300億未満	13%
300～1,000億未満	53%
1,000億以上	34%
--	--
合計	100%

ポートフォリオ特性値(当月末)

予想PER(倍)	11.8倍
実績PBR(倍)	0.81倍
NCレシオ(%)	37%
予想配当利回り(%)	2.85%
組入銘柄数	17銘柄

ポートフォリオ特性値(当月末)について

※全組入銘柄の加重平均から算出 ※PERと配当利回りは会社予想ベース。予想がない銘柄は前期実績等から算出
※PBRは前期実績ベース ※NCレシオは時価総額に対するネットキャッシュ比率。Kaihou作成

参考:Kaihouからのメッセージ

<アルファ獲得の活動実績>

Kaihouの井村俊哉です。好敵手として意識しているTOPIXは史上最高値を更新しています。この指数を長期チャートで眺めて下さい。高所恐怖症じゃなくてもその高さに震えてしまう事でしょう。このチャートだけで結論を出すならば、今は株を買う局面ではないと言わざるを得ません。但し、森と木の状態が異なるのはよくある話。大型株を中心に日本株のバリュエーションは割高圏に切り上がっていますが、中小型株は別世界です。高市政権が誕生し、Kaihou社のハウスビューとして日本株マクロの方向感と年単位の頑強なトレンドを発見できた為、2026年を見越した布陣へとPFを大胆に組み替えていました。11月末時点で新PFへの移行は7~8割程度完了し、基準価額を高位に保ちながら、「解放の日」後の4月末と同水準のバリュエーションへと割安感を高めることができました。1月27日の運用開始が第一陣であれば、12月からの第二陣は「ディープ・バリュー・シクリカル」を重点的に組入れ、下値の堅さを担保しながらシクリカルの爆発を取りに行く。2026年は守りながら戦って参ります。

<アルファ発掘の戦略>

マーケット環境を踏まえた戦略変更にフィットさせる為に、アルファスコアの算出ロジックをチューニングしました。ダウンサイドに対する加点としているDスコアを30→35点に、アップサイドのUスコアを70点→65点に調整しています。Dスコア引上げの意図は、TOPIXなど全体相場の絶対水準が上がっている事に対して警戒感を高めているからでもありますが、守りに入っているわけではございません。むしろ、低位なマルチブルがアップサイドの要因にもなるという見解を踏まえたものです。つまり、「守りながら戦う」を表現したものであり、下は限定しているのに上がある、というリスクリワードに基づいた変更とご理解下さい。注力している新PFへの移行を完了させながら、来年の株主総会を見据えたエンゲージメント戦略を紡いで参ります。

<竹内敬蔵の目(投資アイデア)>

10月の詰問会でもお話をさせていただきましたが、CPI(消費者物価指数)の項目別ウェイトを見ると食料の構成比が26%となっており大変大きなウェイトだなと感じます。加えて交通・通信が15%、光熱・水道は7%等、輸入物価の影響を受けそうな項目が多いなという印象も持っています。高市政権発足後に円安が進んでおり輸出企業を中心に業績にポジティブな影響が出る一方、同時に物価高騰を引き起こす可能性を高めており、この為替変動が利上げの可能性を高めているというのが足元の市場環境かと思います。ファンド設定時の1月の環境からすると、まさに激変だなと感じます。本年も残すところ1ヶ月、師走も気を引き締めて最適な助言に努めてまいります。

ファンドの特色

特色1

わが国の上場企業を対象に、マクロ経済動向等のトップダウン分析および同業他社比較等のボトムアップ分析の両面から企業の本源的価値を算出し、本源的な価値と市場価格との乖離が著しい銘柄を厳選して集中投資を行います。

- ・わが国の株式等の上場有価証券への投資および有価証券先物取引等の実行にあたっては、株式会社Kaihouより投資助言を受けます。

特色2

徹底的なリサーチとリスク管理、投資先企業へのエンゲージメントを通して、受益者へのリターンの提供を目指します。

- ・本源的な価値は外部環境の変化等で変動し続けているため、弛まぬリサーチで常にアップデートし、投資先企業へのエンゲージメントを通してカタリストの創出と価値の顕在化を図り、受益者へのリターンの向上を目指します。
- ・株式会社Kaihouでは、投資先企業(投資予定を含む)へのエンゲージメントを実施し、その結果も踏まえて投資助言を行います。

特色3

株式の組入比率は、原則として高位を維持することを基本とします。

投資リスク

基準価額の変動要因

投資信託は値動きのある有価証券(外貨建資産には為替リスクがあります。)に投資するため、基準価額は変動します。従って、**金融機関の預金と異なり投資元本が保証されているものではありません。組入有価証券の価格が値下がりすることにより、損失を被り、投資元本を割り込むことがあります。運用の結果として信託財産に生じた利益および損失は、全て投資者に帰属します。**

主な変動要因

株価変動リスク	一般に株価は、個々の企業の活動や一般的な市場・経済の状況、国内および国際的な政治・経済情勢等に応じて変動します。従って、当ファンドに組み入れられる株式の価格は短期的または長期的に下落していく可能性があり、これらの価格変動または流動性に予想外の変動があった場合、重大な損失が生じる場合があります。
集中投資のリスク	当ファンドは、分散投資を行う一般的な投資信託とは異なり、銘柄を絞り込んだ運用を行うため、市場動向にかかわらず基準価額の変動は非常に大きくなる可能性があります。また、特定の銘柄への投資が集中することによって、その銘柄に経営破綻や経営・財務状況の悪化等が生じた場合には、大きな損失が発生することがあります。
信用リスク	組み入れられる株式等の有価証券やコマーシャル・ペーパー等短期金融商品は、発行体に債務不履行が発生あるいは懸念される場合には価格が下がることがあり、また、投資資金を回収できなくなることがあります。

その他の留意点

・当ファンドのお取引に関しては、金融商品取引法第37条の6に定める「書面による契約の解除」(いわゆるクーリング・オフ)の適用はありません。当ファンドは、大量の換金が発生し短期間で換金資金を手当てる必要が生じた場合や主たる取引市場において市場環境が急変した場合等に、一時的に組入資産の流動性が低下し、市場実勢から期待できる価格で取引できないリスク、取引量が限られてしまうリスクがあります。これにより、基準価額にマイナスの影響をおよぼす可能性や、換金のお申込みが取消となる可能性、換金代金のお支払いが遅延する可能性があります。・資金動向、市況動向等によっては、また、不慮の出来事等が起きた場合には、投資方針に沿った運用ができない場合があります。・収益分配金の水準は、必ずしも計算期間におけるファンドの収益の水準を示すものではありません。収益分配は、計算期間に生じた収益を超えて行われる場合があります。投資者の購入価額によっては、収益分配金の一部または全部が、実質的な元本の一部払戻しに相当する場合があります。ファンド購入後の運用状況により、分配金額より基準価額の値上がりが小さかった場合も同様です。収益分配の支払いは、信託財産から行われます。従って純資産総額の減少、基準価額の下落要因になります。・投資信託は、預貯金や保険契約とは異なり、預金保険機構、貯金保険機構および保険契約者保護機構の保護の対象ではありません。また、証券会社を通じて購入していない場合は投資者保護基金の支払いの対象とはなりません。

お申込みメモ

購入単位	100万円以上1円単位(ただし、収益分配金を再投資する場合は、1円以上1円単位) 毎営業日購入の申込みを行うことができます。
購入価額	購入申込日の翌営業日の基準価額(ファンドの基準価額は1万口あたりで表示しています。)とします (ただし、当初申込期間においては1口あたり1円)。
購入代金	販売会社(fundnote株式会社)が定める期日までにお支払いください。
換金単位	1口もしくは1円単位 毎営業日換金の申込みを行うことができます。
換金価額	換金申込日の基準価額から0.3%の信託財産留保額を控除した価額とします。
換金代金の支払い	原則として、換金申込日から起算して4営業日目からお支払いします。
申込締切時間	毎営業日の午前11時30分までに行われた申込み(当該申込みに係る販売会社所定の事務手続きが完了したもの)を 当日の申込みとします。
購入の申込期間	当初申込期間:2025年1月10日から2025年1月24日まで 継続申込期間:2025年1月27日から2025年12月25日まで ※ 継続申込期間は継続申込期間満了前に有価証券届出書を提出することによって更新されます。
換金制限	大口換金には制限を設ける場合があります。
購入・換金 申込受付の中止 および取消し	金融商品取引所等における取引の停止等、その他やむを得ない事情があるときは、購入、換金の各お申込みの受付を中止すること、および既に受け付けた購入、換金の各お申込みの受付を取り消すことがあります。
信託期間	2035年9月25日までとします(2025年1月27日設定)。
繰上償還	委託会社は、受益権の口数が設定日から3年経過後に30億口を下回ったときには、受託者と合意の上、信託期間を繰上げて償還させる場合があります。また、この信託契約を解約することが受益者のために有利であると認めるとき、またはやむを得ない事情が生じた場合には、受託者と合意の上、信託期間を繰上げて償還させることができます。
決算日	原則、毎年1月8日(休業日の場合は翌営業日)とします。ただし、初回決算は2026年1月8日とします。
収益分配	年1回の決算時に、原則として、収益分配方針に基づいて、収益分配を行います。 ただし、委託会社の判断により収益分配を行わない場合もあります。(再投資可能)
課税関係	課税上は株式投資信託として取り扱われます。 原則として配当控除の適用が可能ですが、なお、益金不算入制度の適用はありません。 公募株式投資信託は税法上、一定の要件を満たした場合にNISA(少額投資非課税制度)の適用対象となります。 ファンドは、NISAの対象ではありません。税法が改正された場合等には、変更となる場合があります。 税金の取扱いの詳細については、税務専門家等にご確認されることをお勧めします。

ファンドの費用

投資者が信託財産で直接的に負担する費用

購入時手数料	ありません。
信託財産留保額	換金申込日の基準価額に対して0.3%を乗じて得た額します。

投資者が信託財産で間接的に負担する費用

(1) 基本報酬額

ファンドの純資産総額に基本報酬率**年1.87% (税抜き年1.7%)**を乗じて得た額がファンドの計算期間を通じて毎日計上され、毎計算期間の最初の6ヵ月終了日および毎計算期末、または信託終了のときに、信託財産から委託会社に支払われます。

基本報酬率の配分は下記のとおりとします。

支払先	役務の提供	料率(税抜き)
運用管理費用 (信託報酬)	運用会社としての機能分(ファンドの運用とそれに伴う調査等)	年1.065%
	販売会社としての機能分 (口座内でのファンドの管理および事務手続き、運用報告書等 各種書類の購入後の情報提供等)	年0.6%
受託会社	ファンドの財産の保管・管理、委託会社からの指図の実行	年0.035%

※表に記載の料率には、別途消費税がかかります。

(2) 実績報酬額

実績報酬は、毎計算期間(第1計算期間を除きます。)の最初の6ヵ月終了日および毎計算期末、または信託終了のとき、10,000口あたり基準価額(収益分配および実績報酬が発生した場合は、当該金額控除前)がハードルレートを加味したハイ・ウォーター・マークを上回っている場合、信託財産から委託会社に支払われます。

※委託会社の信託報酬には、株式会社Kaihouへの投資顧問報酬が含まれております。

(1) 監査費用、計理関連費用、法定書類関係費用等

ファンドの純資産総額に対して年0.11%(税抜き年0.10%)を上限とする額がファンドの計算期間を通じて毎日計上され、毎計算期間の最初の6ヵ月終了日および毎計算期末、または信託終了のときに、信託財産から委託会社に支払われます。

※監査費用:監査法人等に支払うファンドの監査に係る費用

計理関連費用:計理業務(基準価額算出等)およびこれに付随する業務

(設定解約処理、法定帳簿管理、法規則に基づく報告、基準価額の配信等)に係る費用(業務を委託する場合の委託費用を含む。)

法定書類関係費用:目論見書、有価証券届出書、運用報告書等の作成、印刷および提出等に係る費用

(業務を委託する場合の委託費用を含む。)

(2) 組入有価証券売買委託手数料、信託事務の諸費用等

その都度信託財産から支払われます。これらの費用は運用状況等により変動するため、事前に料率・上限等を示すことができません。

※組入有価証券売買委託手数料:有価証券の売買の際、売買仲介人に支払う手数料

信託事務の諸費用等:信託事務の処理に要する諸費用、信託財産に関する租税等

※ ファンドの費用の合計額については、投資家の皆さまが保有される期間や運用状況等に応じて異なりますので、表示することができません。

委託会社、その他関係法人

委託会社 fundnote株式会社（信託財産の運用指図等を行います。）
金融商品取引業者 関東財務局長(金商)第3413号

受託会社 三菱UFJ信託銀行株式会社

投資助言会社 株式会社Kaihou

お申込みは ▼

金融商品取引業者名

登録番号

加入協会

fundnote株式会社 金融商品取引業者

関東財務局長(登金) 第3413号

一般社団法人 投資信託協会

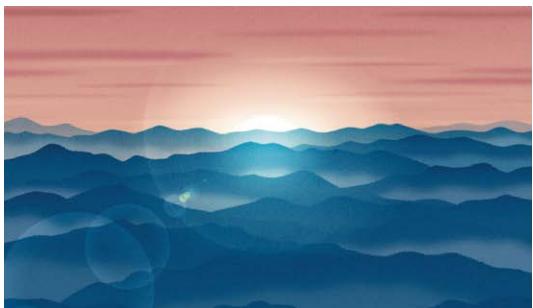
参考指数に関する注意事項

TOPIXに関する知的財産権その他一切の権利は、株式会社JPX総研または株式会社JPX総研の関連会社（以下「JPX」といいます。）に帰属します。JPXは、TOPIXの算出もしくは公表の方法の変更、TOPIXの算出もしくは公表の停止またはTOPIXにかかる標章または商標の変更もしくは使用の停止を行う権利を有しています。また、JPXは当ファンドの取引および運用成果等に関して一切責任を負いません。

本資料のご留意点

- 本資料は、fundnote株式会社が信頼できると判断したデータに基づき作成されておりますが、その正確性、完全性について保証するものではありません。また、将来予告なく変更されることがあります。
- 本資料中のグラフ、数値等は過去のものであり、将来的傾向、数値等を予測するものではありません。
- 投資信託は値動きのある証券に投資しますので、基準価額は変動します。したがって、元本保証はありません。
- 投資信託の運用による損益はすべて受益者の皆様に帰属します。

商品一覧



fundnoteIPOクロスオーバーファンド

【愛称】

匠のファンド あけぼの

fundnoteIPOクロスオーバーファンドは、上場後5年以内の中小型株と未上場株のうち2年以内に上場を予定する銘柄に投資するIPOクロスオーバー戦略*を実施します。

*「IPOクロスオーバー戦略」とはIPO(新規公開)という垣根を越えて投資を行う戦略で、IPO後の中小型株式のみならず、IPOを控えた未上場株式にも投資機会を拡張し収益を追求する戦略です。



fundnote日本株Kaihouファンド

【愛称】

匠のファンド かいほう

fundnote日本株Kaihouファンドは、わが国の上場企業の中から、本源的な価値と市場価格との乖離が著しい銘柄を厳選して集中投資を行います。株式等への投資にあたっては、株式会社Kaihouより投資助言を受けます。



fundnoteTOB企業価値ジャッジファンド

【愛称】

匠のファンド さいこう

fundnoteTOB企業価値ジャッジファンドは、TOB等のコーポレートアクションが期待できる銘柄への投資と、本源的企業価値と市場価格との乖離について短期的な収束を狙う投資の二つの戦略を実施します。

fundnoteはSNSを、情報発信の窓口として活用しています。

投資信託業界の最新情報やファンドマネージャーの見解、運用の裏側など
ぜひフォローして、ファンドの"今"を身近に感じてください。



顔の見える資産運用
FUNDNOTE

fundnote株式会社 
@fundnote_inc





YouTube

早稲田大学野球部
野村證券
投資ファンドを創業
最強の営業マン社長を目指す
たった3年で
お預かり資産
350億円に到達
日本一の資産運用会社

Fans of Funds - 1兆への挑戦【fundnote】
@fundnote

